



●地域と子どもたちがはぐくむ  
ホタルが舞う竜野川の豊かな自然

今年4月に発足した同会は、5月に熊本県自然環境研究会代表の小林修さんを講師として招き、龍野小学校で地域の子どもたちや住民を対象としたホタルの勉強会を開催しました。

勉強会では、ホタルの一生や生態について学び、どんな場所を好み、どんなものを食べるかなどを学習しました。また、ホタルの観察会も竜野川で実施して、無数にホタルが乱舞する竜野の美しい風景を再確認し、郷土と生命の大切さを実感しました。

7月には、ホタルの棲みやすい環境と子どもたちが遊べる環境をつくるために、緑川漁業協同組合（山口照雄組



合長）の協力を得て、同会で竜野川

の環境整備に取り組みました。重機を用いて川の流れを緩やかにし、ホタルの幼虫が上陸できる水辺の環境をつくりました。会員の皆さんは「ホタルが棲みやすい環境と、子どもたちが遊べる水場ができたので、ここで自然とたくさん触れ合ってほしい」と汗を光らせました。



「ホタルに餌であるカワニナを与えるのが大変」と生命の大切さを感じていました。今後は、飼育している幼虫のうち半分を竜野川に放流して、あとの半分は成虫になるまで児童が飼育する予定です。「自分たちが育てたホタルが、竜野川でたくさん光ってくれるとうれしい」と、児童は笑顔で夢をふくらませました。



また、同会は龍野小学校（佐藤浩介校長 125人）とも連携・協力して、環境教育にも取り組んでいます。中でも4年生（本村祐太郎教諭16人）は、同会や自然観察研究会の小林さんの指導の下、ホタルを卵から育てる取り組みを始めました。児童は幼虫の水槽を

大事そうに眺めながら、

●ホタルの可能性で光輝く地域  
美しい風景が開く新しい挑戦

同会の活動は、県などが進める「くまもと里モンプロジェクト」の助成金などを活用して取り組んでいます。同プロジェクトは、熊本が誇る「里の美しさ」を県民みんな育て、新しい挑戦として発信していく事業に対して助成するものです。

金森さんは「まず、ホタルはその年によって出現数が増減するので、毎年たくさん光であふれるようにすること。ホタルの光でいっぱいになったら、川の植物やほかの生き物を調査して、さらにホタルの住みやすい環境を研究し、もっと竜野を輝かせたい」と今後の夢を語りました。

